

放課後の効果的なプログラム

オリンピックと遊ぼう!

日本ゲートボール連合

事業実施までの経緯

財団法人日本ゲートボール連合は、平成一七年度・一八年度の二年間にわたり、地域子ども教室推進事業の運営協議会を立ち上げ、「ふれあい教室」と称して全国に約三〇〇か所を超える教室を直接実施してきました。これだけ多くの教室が開催されたのは、近年、「親子」をキーワードに各種のスポーツ



スピードスケートショートトラック
(川崎努さん、山田伸子さん：茨城県牛久市立向台小学校にて)
「球技や走ることが苦手だったが、スケートと出会ってスポーツが好きになった。みんなも上手にならないからってあきらめずにいろんなものにチャレンジしてほしい」



新体操 (山崎浩子さん：静岡県富士市立青葉台小学校にて)
「踊りが好きで体が柔らかかった特技を何かで活かせないかと思っているときに新体操をはじめて自分に自信がもてるようになった。一生懸命に取り組むことをおぼえてほしい」

にこの取組を理解してもらい、協力関係を築きつつかけとするとともに、保護者の方々に対し、スポーツ活動や体をつかった遊びの重要性を認識いただき、実施教室へ参加(立会い・協力)していただくきっかけづくりとして、四か所程度でモデル的に実施したことがはじまりました。

オリンピックと遊ぼう

スポーツの頂点となるオリンピックに、日本を代表して出場し活躍した選手(オリンピ



バレーボール (荒木田裕子さん、山本愛さん：広島県広島市立五日市南小学校にて)
「オリンピックでたくさんの国の選手と会って、いろいろな文化を知りました。出会いをだいじにしてください」



水泳 (長崎宏子さん：埼玉県朝霞市立第二小学校にて)
「練習で毎日最低10km泳いでいました。勉強も一緒に毎日続けることがだいじです」

初心者教室を開催したり、これにともなうボランティア指導者やスポーツ指導員の育成に着手してきたこととあわせ、ゲートボールを通じた地域貢献や社会的弱者の支援に中央競技団体として深くかかわってきたことの効果です。もともとゲートボールは、地域に密着したスポーツであり、高齢の指導員も多いことから、昔遊びや伝統行事など、地域の特性を活かすこともでき、さらに、既存のゲートボール場などを活用できるので、平日の放課後なども比較的活動がしやすかったことがあります。また、高齢の指導者と孫の世代との交流に

アン)が、子どもたちとふれあい、交流して自分の子どもだったころの話や経験談などを語ってもらいながら、あらためてスポーツのすばらしさや競技を通じた貴重な人生経験を伝えようとするものです。

実施に向けては、一八年度までの実績を加味しながら開催希望をとり、地域の指導員を通じて教育委員会と学校の協力体制を確認しながら、地域の特性にあわせて日時等の計画を立てていき、募集や取りまとめ・当日のスタッフの配置や保護者との連絡方法などを決

も相互のニーズがあり、それがマッチしたこと、もともとゲートボールは小学生向けに考案されたものであり、子どもたちにも取り組みやすかったことも大きな要因です。

その中でも、当連合が実施する子ども教室の、より効果的な事業実施を推進するため、「オリンピック」と子どもたちの交流事業を試みました。

これは、子どもの健全育成に向けた体力向上を図る際、外部からの協力で消極的な学校

めていきました。なお、オリンピックのみなさんは、特定非営利活動法人日本オリンピックズ協会にご紹介いただきました。

なぜ、オリンピックなのか?

いままでにオリンピックに出場した選手は全国で約三五〇〇名おり、その中のほんのひと握りの選手がマスコミに取上げられたり講演などを行ったりしていますが、そうした方々以外にも、なかには種目の普及発展や地元への奉仕活動・社会貢献を求めている選手もいて、そうした機会への参加を待っている方がボランティアとして協力してくれる場合があります。特定非営利活動法人日本オリンピックズ協会は、オリンピックと地域のスポーツ教室などを通じた交流事業を積極的に展開しており、今回の事業実施の実現もこの協会に大いなる協力をいただき実施したものです。

全国各地で実施しているオリンピックズと子どもたちとの交流により、子どもたちに夢と希望を与え、それにより日々の生活に目標や励みを生み出す機会となっています。子どもたちの健全育成のため、今後とも放課後の効果的なプログラムを検討していきたいと思っています。
(会長 小野清子)